

( 電子メール施行 )

農技 第 1 4 5 6 号

平成 30 年 12 月 19 日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察防除情報 第 4 号 を下記のとおり発表します。防除指導等の参考としてご活用下さい。

タマネギ本圃で、べと病の全身感染株を確認しています。今後、さらに発生が懸念されますので、圃場での発生状況を定期的に観察し、「全身感染株の抜き取り」と「薬剤防除」を徹底するようご指導願います。

平成 30 年度 病虫害発生予察防除情報 第 4 号  
タマネギべと病の防除対策について

- |        |      |
|--------|------|
| 1 対象作物 | タマネギ |
| 2 病虫害名 | べと病  |
| 3 発生地域 | 淡路地域 |

#### 4 発生状況と今後の発生

平成 28 年春期に本病が多発し、土壌中のべと病菌の卵胞子密度が上がっていると考えられる。11 月 27 日に実施した現地苗床調査においては発生を認めなかったが、12 月 12 日に南あわじ市のタマネギ圃場（本圃）で全身感染株の初発生を確認した。これは例年より早い発生である。今冬の 3 カ月予報によると、近畿地方の気温は高い確率が 50%、降水量は近畿太平洋側で多い確率が 40%と予想されていることから、今後、平年より早い全身感染株の発生が懸念される。

#### 5 本病の特徴について

本病は卵菌類に属するべと病菌による病害であり、前年秋の苗床や圃場に残った卵胞子がタマネギに感染し、大部分が無病徴のまま越冬（潜伏期間）して春期に全身感染株として発病する。栽培圃場においては、全身感染株が感染源となって二次感染株が発生し、ひどい場合には葉が枯死する。発病は気温 15℃前後で高湿度状態（曇雨天）が、1～2 日続く場合に助長される。好適条件において病勢の進展はきわめて速い。

#### 6 防除対策について

- (1) 圃場の排水が悪いと、本病の発病を助長するので、排水対策を徹底すること。
- (2) 圃場で発生状況を十分観察し、地域の防除暦やタマネギべと病対策マニュアル（技術者版）を活用して、全身感染株（写真）の完全な抜き取りと薬剤防除を徹底

すること。

- (3) 全身感染株の抜き取りに当たっては、本病の病徴は、圃場内で徐々に発現してくるため、茎葉が繁茂するまで定期的に（1週間に1回程度）よく観察すること。また、孢子飛散を防ぐため、抜き取った罹病株は直ちにポリ袋などに入れ、必ず圃場外へ持ち出し、適正に処分する。
- (4) 薬剤防除は、発病の有無にかかわらず、防除暦に従って必ず行う。散布は降雨前に薬剤が乾くように余裕をもって行うことが望ましい。なお、薬剤散布にあたっては、タマネギの生育に応じた水量とし、散布ムラの無いように丁寧に行うこと。
- (5) 極早生・早生品種及びネギ圃場で発生したべと病が、周辺の中生・晩生品種の感染源になるため、地域全体で防除対策に取り組むこと。
- (6) まだ定植が行われていない苗床については、薬剤防除を定期的に行うとともに、定植前日の薬剤散布（フロンサイド水和剤）を必ず行うこと。



写真 全身感染株（葉身が湾曲・黄化し、分生胞子を形成する。右写真のように生育が悪く、草丈が低くなることもある。）

\*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。  
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222